

◆ルクソール東岸観光の目玉 カルナック神殿とルクソール神殿



写真：カルナック神殿のラムセス3世神殿

エジプト最大級のカルナック神殿 と ルクソール神殿



カルナック神殿

ルクソール東岸最大の見所といえるカルナック神殿。王が神となっていた古王国時代、アメン神はテーベという地方の神でしかなかったが、中王国時代にテーベが発展し第12王朝の時代、太陽神ラーと結合を果たし、アメン・ラー神となって国家最高神となりアメン神殿が造営された。その後、歴代の王達は競うようにカルナック神殿を増築し続けた。



カルナック神殿の大列柱室

◆ルクソール西岸 王家の谷/ハトシェプスト女王葬祭殿/メムノンの巨像etc



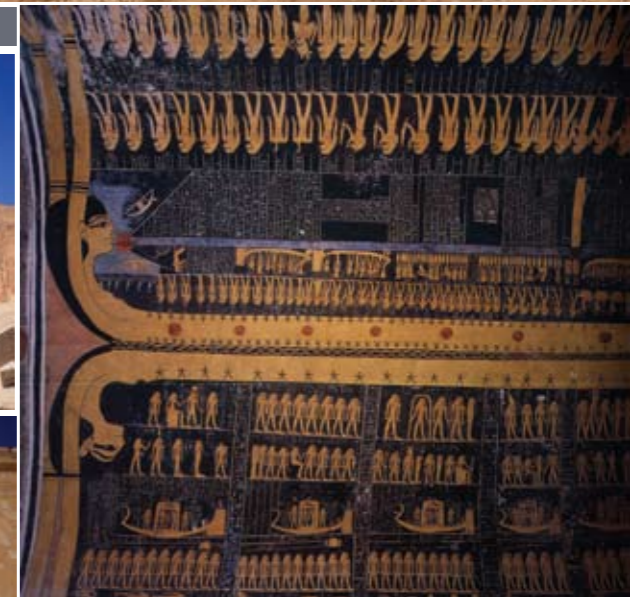
写真：ハトシェプスト女王葬祭殿

王家の谷/ハトシェプスト葬祭殿/メムノンの巨像

王家の谷はピラミッドの形をしたエルクン山の麓に全部で63の墓が発見されており、ツタンカーメン、トトメス3世、ラムセス4世、ラムセス9世などを代表とする墓内部が見学できる。墓は山腹に掘り込まれた長い回廊といくつかの部屋、玄室からなり壁や天井に色の付いた壁画が掘り込まれている。壁画装飾には神々の前で供え物を捧げ祈る王の姿や、冥界の描写があり興味深い。



エジプトで初めての女王、ハトシェプストがアメン神、父トトメス1世、そして自らのために造営した葬祭殿。ハトシェプスト女王の側近で建築家でもあったセンムトが設計し、褐色の切り立った崖を背景に扇形に広がる地形を利用して建立した。巨大なテラスが3段あるのが特徴で、その秀麗な姿は当時「神聖なるものの中でもっとも神聖なるもの」といわれた。後にコプトの教会として使用されたことからデイル・エル・バハリ（北の修道院）とも呼ばれる。



ラムセス6世の墓 玄室天井の天文学的描写 天球を意味する女神ヌトの湾曲した体は太陽神の昼と夜の旅を見守る。上は夜の12時間を表し赤い太陽円盤で示される沈む太陽を女神が飲むところを描写している。



ハトシェプスト女王葬祭殿 オシリス柱



1対の巨大な像のうち右の像が地震でひび割れ、夜明け前に音を発するようになったためギリシャ神話の曙の女神の息子メムノンと結びつけられるようになった。

プトレマイオス王朝のファラオにして絶世の美女クレオパトラがローマの英雄シーザーと共にナイルの船旅をしたことは有名だが、テーベの神殿も間違いなく訪れたと考えられる。